

伊勢神宮のご利益をより完全にする参拝方法を実施してきた

橋爪 節子

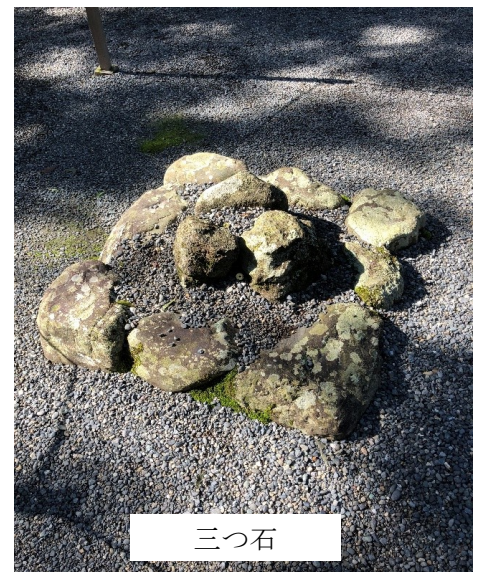
車で約 8 時間、夫婦岩のある二見興玉神社から始まる。二見浦は古から船で伊勢参りに来る人の玄関口で、そのまま海でお清めをし、伊勢神宮に向かうというしきたりが根付き禊（みそぎ）の聖地となった。



夫 婦 岩

伊勢神宮は、太陽を神格化した最高神天照大御神を祀る**内宮**、天照大御神の食事を司る豊受大御神を祀る**外宮**からなる。天照大御神が「我が祭り仕え奉る時は先ず豊受の神の宮を祭り奉るべし」と指示したとされ、同じ祭も外宮から行うことより外宮から参拝するのが習わしである

先ずは外宮へ。中には、しめ縄で囲われた三つ石がある。ここは式年遷宮の時、お祓いをする場所でパワースポットとしても有名である。



三つ石

内宮前におはらい町がある。江戸時代、御師（おんし）の家が立ち並び伝統的な伊勢の町屋が多く、当時にタイムスリップしたかのような家並みや情趣が残る一郭だ。御師が授与したお札を「お祓」と呼んだことから町の名が付いたそう。その町の中央におかげ横丁がある。多くの人々の手助け【おかげ】や両神宮を無事参宮できたことからお陰（おかげ）と称したようだ。

昼食はこの町で絶品の的矢のカキフライ、焼き牡蠣そして地ビールに舌鼓をうった。赤福本店では、あえて赤福餅ではなく、冬季限定のぜんざいを食べた。夏季はかき氷となり、ここでしか味わえないスイーツである。

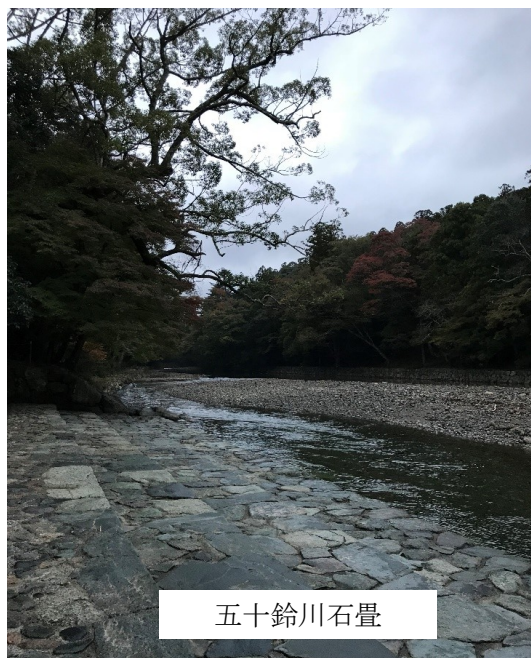


おはらい町

そして、内宮へ。祀られている神様は太陽を神格化した最高神の天照大御神。
内宮の大鳥居をくぐり宇治橋を渡る。入口左側2番目の擬宝珠ぎぼしの中には安全祈願の神札が入れており、触るとご利益があるとされている。
庭園のまっすぐ伸びた道を進むと電線など現代のものがなく、早朝参拝で人も少なく、いにしえ古の世界が際立っていた。
手水舎が作られる前に五十鈴川で清めてから参拝するしきたりだった。徳川綱吉の生母桂昌院が手を洗いやすくする石畳を作らせた。川で清めてから、天照大御神に用件を取り次いでくれる瀧祭神（たきまつりのかみ）に「うまく取り次いで」と願うことも忘れずに。



擬宝珠（ギボシ）



五十鈴川石畳

正宮へ。日々の平和な生活への感謝を思うのが正しい参拝である。

個人的な願いをしたい場合は、荒祭宮（あらまつりのみや）へ。

また、伊勢神宮内にはお賽銭箱もおみくじもない。それは「一生に一度と憧れた伊勢参りは、実現した日が大吉でないわけがない」ということからである。

伊勢神宮参拝後は、あさ朝熊岳山頂にあるこんごうしょうじ金剛證寺へ。

内宮より伊勢志摩スカイラインを車で20分。
伊勢神宮から見て金剛證寺の位置は、北東で鬼門の位置にある。金剛證寺があるから伊勢神宮に邪気が流れないようになっている。伊勢音頭でも「朝熊（金剛證寺）かけねば片参り」伊勢参りは半分しか終わっていないと唄われている。

当日激しい雷雨で山頂からの景色は堪能できなかったが、まるで穢れを落とす禊のようだった。



正宮